

第2分科会

人との触れ合いを通して育つ、豊かな感性とは
～異年齢との関わり、地域との交流の在り方を探る～



発表者 小宮山 絢佳 (鳥取第三幼稚園)
指導助言者 前田 恵子 (鳥取県幼児教育センター
指導主事)
司会者 小谷 京子 (鳥取第三幼稚園)
記録者 岸本 真菜穂 (鳥取第三幼稚園)
宇多川 舞 (鳥取第三幼稚園)

1. 発表の概要

(1) 主題設定の理由

近年、家庭においても地域においても人間関係が希薄化し、子ども達の人と関わる力が弱まってきていると言われている。そのような状況の中、本園の子ども達は1年を通して、教師や園内の同年齢や異年齢の友達だけではなく、地域の保育園児、小学生、中学生、高校生、教育実習生、老健施設のお年寄り、地域の方など様々な人と出会う機会がある。

しかし、毎年同じように多数の交流や体験を行ってきたが、子ども達の姿から、そのことは本来私達が育てたい豊かな感性につながっているのか、いろいろな体験をするだけに教師は満足していないだろうかと疑問を感じるようになった。そこで、人との触れ合いを通して育てたい感性について教師間で話し合い、交流の在り方について考えるようになった。その中で、子ども達に何が育ち、何が心に響いていたのかを考えていく必要があると感じる。

子ども達の心を揺さぶり、心動かされるふれあいや交流が、豊かな感性の育ちにどうつながっているのか、また、そのことが子ども達の遊びや生活にどのようにいかされていくのかを考えていきたい。

(2) 取り組みについて

- ・実践事例の見直しを行い、感性の育ちについて共通理解を図り、記録をして見取っていく。
- ・交流（地域・異年齢）のもち方、遊びの内容、環境構成等の工夫の研究・考察をする。
- ・様々な経験を子ども達の遊びの中や生活に生かしていくための日々の保育の「PDCAサイクル」の実施を行う。そして、カリキュラム・マネジメント（自園のカリキュラムのPDCAサイクル）を行い改善していく。

(3) 実践例

事例①地域交流「中学生、未就園児の交流」平成28年度 年長児

本園では、浜坂校区にある中ノ郷中学校3年生が家庭科の授業の一環として、毎年10月頃、幼稚園を訪問し、子ども達との交流を行っている。

「お兄さん お姉さんが来た」

ねらい…中学生交流を通して、様々な人と関わる楽しさや喜びを感じる。

中学生交流を通して、人と関わる楽しさや嬉しさを感じた子ども達は、積極的に2歳児クラスに出向き、関わりを楽しむ等、小さい友達と一緒に遊びたい気持ちが高まった。そこで教師は、未就園児を対象とした交流活動を計画し、遊びのコーナー作りを子ども達と挑戦することにし、グループ構成、コーナーの内容の検討、遊びの準備等、自分達で主体的に行えるよう保育を仕掛けていった。

「相談しよう」～どんな遊びが嬉しいかな～

ねらい…友達の思いや考えを共有しながら、話し合いを進める

話し合いを進めていく中で、意見の食い違いや衝突はあったが、「みんなに喜んでもらえるもの」という思いを大切に、気持ちに折り合いをつけながら進めていく姿が見られた。

「作ってみよう」～友達と力を合わせて～

ねらい…友達と一緒に工夫したり、協力したりして制作をする楽しさを味わう。

制作を進めるにあたり、様々な感性を広げながら制作を進めてほしいという教師の思いもあり、子ども達と、3つの約束をした。

① 小さい友達が喜ぶ遊び ② 小さい友達が楽しめる内容 ③ 小さい友達が危なくない活動

また、子ども達と当日までの活動の予定を話し合い、視覚でわかりやすい表示をすることで、見通しをもちながら活動が進められるよう環境を整えた。

「待ちに待った 招待する日」～喜んでくれるかな～

ねらい…様々な人との関わりを通して、相手の気持ちを考えて寄り添い、役立ち感をもつ

実際に未就園児の友達が来ると、自分達から「何して遊ぶ？」と関わり、相手の興味を探りながら、優しく言葉をかけたり、見本を見せながら優しく教えたりする姿が見られるなど、自分達がしてもらって嬉しかった経験が、いろいろな場面で生かされていた。

嬉しかった経験を生かして遊びを展開することができた子ども達は、交流後に、「めっちゃ楽しかった、今日はいいい一日だったな」と話し、子ども達の心の中に満足感や達成感が溢れているのが感じられた。

考察

人から大切にされたり、心を寄せてもらう経験は、子ども達に多様な感情を育み、様々な活動に主体的に挑戦してみようとする意欲になる。また、教師は子ども達が主体的に行動できるような環境構成や保育の組み立てをする必要がある。今後の保育の発展に見通しをもちながら自分達で行えるよう、見守り環境を整えていく。

「他の組も招待しよう」

ねらい…共通の目的に向けて、友達と主体的に活動することを楽しみ、充実感を味わう。

教師は、子ども達が自分達で遊びを進めようとする様子を見守りながら、他学年の職員に子ども達の気持ちを伝え、交流できる日を設けた。年少組が遊びに来てくれ、年少児に合わせた関わりをする様子も見られ、様々な感性を働かせながら関わろうとする心の育ちが感じられた。

考察

交流で感じた役立ち感や自尊心が、子ども達の心を動かし、遊びの発展につながった。教師が、子ども達の育ちを意識したねらいをもち、保育を組み立てていくことで子ども達の主体性の育ちが見られた。満足感や充実感を味わいながら遊ぶ経験を積み重ねることで、豊かな感性を刺激し、意欲的な姿となった。そのことが相手の気持ちにも寄り添おうとするなど、心の育ちにもつながっている。様々な人との触れ合いを通して、人との関わり方に気づき、相手の気持ちを推測して関わったり、自分自身が必要とされている喜びを感じたりすることができた。このことは今後、子ども達が地域に親しみをもち、社会とのつながりを意識するきっかけになるだろう。

事例②異年齢交流「車で遊ぼう」平成29年度 年長児・2歳児

年長組に進級してからも、自由遊びの時間に友達と一緒にアイデアを出し合いながら制作を楽しむ姿が多く見られる。異年齢の関わりとしては、年長児は4月から、2歳児の給食の手伝いをしたり、自由遊びの時に、保育室を行き来したりして一緒に遊んでいる。

2歳児では、保育室に電車の玩具やミニカーがあり、少しずつ友達の遊びに興味をもち、真似をして遊ぶ姿が見られている。

そんな中、年長児は、6月に行われた家族参観日の時、親子で車作りをしたことをきっかけに、車を動かして遊ぶレース場や町作りが盛り上がった。

年長組の保育室に来てくれる2歳児の姿を見た年長児は、一緒に遊ぶ計画を立てた。

話し合いから、「事前にひよこ組さんが作りやすいように材料を用意し、作る時には、ひよこ組さんはシールを貼るなどをして、難しいところは年長児が手伝おう！」ということになった。

ねらい・・・年長児は、いろいろな友達と一緒に遊ぶ中で、相手に寄り添おうとする気持ちをもつ。

2歳児はいろいろな友達と一緒に車を作ったり、遊んだりすることを楽しむ。

年長児がすべて車を作ってしまうのではなく、2歳児も年長児の姿をみながら、材料を選んだり、シール貼りしたことで、自分で車を作ったという気持ちももてた。また、年長児が遊び方を知らせたり、優しく声をかけてくれたので、安心して一緒に遊ぶ姿が見られた。

考察

子ども達の主体的な関わりを大切にしたいという教師の思いから、担当やペアをあえて決めなかったことで、年長児自ら、困っている2歳児を見つけて声をかけたり、傍にいる子にさりげなく寄り添う姿も見られた。2歳児も、近くにいる年長児を頼りにしながら遊ぼうとするなど、自然な関わりをもつことができた。今回の交流を通して、2歳児は年長児に、憧れや嬉しい気持ちをたくさん感じるようになったように思う。この思いから、今までより親しみをもって年長児と関わり、一緒に遊ぼうとする姿が見られるようになってきた。2歳児に手本を見せたり頼られたりすることで、役立ち感を味わう子どもの姿も見られ、今後の活動の意欲や自信につながっていったように感じる。

(4) 反省と考察

◎人との触れ合いの中から育ったと思われる「感性」について考える。

- ・交流を通して、いろいろな人から優しくされ、認められ、心寄せ合う経験ができた。この経験の中から、子ども達は自分の良さに気づき、人から大切にされているんだという自尊心が育ったように思う。この育ちは、他の友達にも優しく寄り添う姿につながった。
- ・興味・関心を広げながらじっくりと遊び込み、充実感や満足感を味わう経験を積み重ねたことは、異年齢交流の中でも相手の立場になって寄り添い、自分ができることにやる気をもって挑戦する心につながった。そして、友達と協力し合いながら主体的に活動を展開していく力となった。
- ・年上の友達は、年下の友達にやさしく声をかけ寄り添う姿が見られた。頼られることで、自分が役に立つ喜びを感じている子どもの姿も見られた。役立ち感は、今後の活動の意欲や自信となり、様々な人に親しみをもつことにつながるのではないかと考える。
- ・異年齢交流の中で、年下の友達は憧れや嬉しい気持ちを感じることができた。このことで安心感をもち、いろいろな友達と意欲的に関わって遊ぼうとする姿が見られるようになった。

◎教師の環境構成や援助の在り方について考える。

- ・複数の職員が目で見守ることで、いろいろな視点での子ども達の育ちを見ることができた。
- ・教師間で、「育てたい子どもの感性」を共通理解しながら、育ちを意識した環境構成や援助を考えてきた。そのことで、ねらいに沿った保育の組み立てがしやすくなった。

- ・教師は、ねらいを達成するために環境を構成し、子ども達が主体的に遊びを展開させる姿を見ながら、環境を再構成していくことが、遊びの発展につながるのではないかと考える。

◎日々の保育を基に、指導計画の改善について考える。

- ・週案、活動計画、教育課程等のカリキュラム・マネジメントを行い、改善点を教師間で共通理解することができた。

(5) 今後の課題

関わりがもちにくい子どもに対して、すぐに相手に寄り添う姿が見られなくても、幼児期の心動かされる体験の積み重ねが力となり、成長した姿が見られるように、今の子どもの姿を記録し、育ちを繋ぎながら実践を重ねていきたい。毎年同じ交流ではなく、日々の振り返りや考察をしながら、その年の子どもにあった交流内容に改善していく必要があると感じた。日々の保育を見直し、子ども達の高い遊びが心ゆくまでじっくりと楽しめる環境を整え、育ちを意識した保育計画を立てるための、教師間の話し合いの時間を意図的に設けていきたい。

2. 研究討議

(1) 発表内容に対する質疑応答

Q. 一つの活動を通して最初の中学生在がきっかけで活動が繋がっているところが素敵だと感じた。子どものつぶやきの姿を大切にしているのだろうと思った。

事例①地域交流の『相談しよう』で7つのグループに分かれて考えたのは「始めからできたグループか、話し合いの中で同じ意見が出てきて集めたグループかどうやって決めたのか」教えて欲しい。

A. 中学生交流からクラス全体で「小さいお友達はどんな活動が楽しめるのか？」遊びの内容を考えた。その後、気の合う友達のグループに分かれ、そこでまたさらにグループで話し合いを深めた。

Q. 自分の園でも異年齢交流はしているのだが、今回の発表は子ども達の「～したい」という思いを大事にしていたところが良いと感じ、参考にしたいと思った。

PDCA(環境の再構成)について具体的にどのようなことをしたのか教えて欲しい。

A. 制作の際、子どもの「～を使いたい！」などのアイデアを大事にし子ども達の姿に合わせて、また環境を整えていった。

Q. 異年齢交流はしているが、年間での計画はない。また登園時間がバラバラのため時間を作りにくいところに難しさを感じている。(バスコースの関係で10時すぎに活動しなくてはいけない。)

異年齢交流の時間をどう確保しているのか知りたい。

A. 設定保育だけでなく、園舎が平屋ということもあり、自由遊びの時にクラスを行き来し、遊んでいる。午前中(給食まで)と午後に時間をとる時もある。

Q. 異年齢交流の考え方として、あえて設定保育(異年齢で散歩など)ではなく自然と関わりをもちたい自分の園は地元が同じ子ども同士が少なく、色々なところから来ているため自然な関わりのかきつけが難しい。

上手く自然に子ども同士が関わるための教師同士の話し合いの取り組み方について知りたい。

A. 初めは仲良し給食・お手伝いなど小さな活動からしていたがただ交流するだけで終わっていた。2年前から、たくさん記録を取るようになっていたが、ただ記録するだけで終わっていた。子どもの育ちにつなげるためには、クラスの教師間で共通理解することが重要であると考えている。日々の自



由遊びも大きなポイントであり、日々子ども同士の様子を伝え合うことが大切だ。そのためには、教師の「日々子どものつぶやきを見逃さない」意識をもって保育していく必要がある。

(2) 全体討議(0.1.2歳・3歳・4歳・5歳各学年のグループに分かれて)

KJ法で、今している地域交流・異年齢交流や育つ感性や育つ力について話し合いを進めていった。

【0.1.2歳グループ】

- 『地域交流』
- ・地域…ロケットくれよんのうきうきコンサート、お祭りでの山車引き、など
 - ・園行事…もちつき大会、バザー
 - ・園外…外遊びの際に地域の方が話しかけて下さる、鬼太郎ロードへの散歩
 - ・小・中学生との交流…小中学生交流、看護学生との交流など

育つ力 → 興味・関心、楽しんで参加する気持ち

- 『異年齢交流』
- ・遊び…自由遊び、触れ合い遊び、お店屋さんごっこ、預かり保育の中での遊び
 - ・散歩…異年齢同士でのペア散歩など
 - ・お手伝い…身体測定、入園当初の朝の片づけ、おひるねトントン当番
 - ・給食…触れ合い給食、2月の終わり頃に進級するお部屋で給食を食べる
 - ・バス…バスから降りると手を繋ぎ玄関まで送る、バス登園児同士での関わり

育つ力 → 憧れ、嬉しい気持ち、やる気、見る力、頑張ろうとする力

【3歳児グループ】

- 『地域交流』
- ・小・中・高校生との交流…小・中学校交流、高校生交流、療育センター交流など
 - ・高齢者交流…高齢者施設訪問、祖父母参観、お年寄りとの交流会など
 - ・地域の方との交流…園外散歩、田植え・稲刈り、芋苗植え・芋堀り、地区の消防団との避難訓練・町探検
 - ・未就園児交流…未就園児来園
 - ・他の園との交流…他の園と一緒に触れ合い遊び・散歩・遊ぶ

育つ力 → 嬉しい気持ち、やる気、お兄さんお姉さんに丁寧に大切に接してもらうことで憧れの気持ちや自尊心が育つ、言葉や表現する力、地域に親しみをもち興味関心をもつ、自然とあいさつをする、感謝の気持ち

- 『異年齢交流』
- ・散歩…園外散歩、園内めぐり、
 - ・行事…遠足、作品展での共同制作、発表会、もちつき、運動会、お別れ会など
 - ・遊び…乳児部との交流、自由遊び、ごっこ遊び、伝承遊び、なかよしデーなど
 - ・その他…クッキング、仲良し給食、身体測定の着替えなどのお手伝い

育つ力 → 嬉しい気持ち、年長児とすることによって憧れをもち挑戦したりやってみたりする気持ち、気づく力、興味・関心

【4歳児グループ】

- 『地域交流』
- ・高齢者交流…老人クラブ来園、老健施設訪問、ディサービス事業への参加
 - ・小・中・高校生との交流…小・中学生交流、高校生交流、職場体験など

- ・地域の方との交流…園外散歩、音楽交流、感謝祭、療育センターとの交流など

育つ力 → 自尊心、人に優しくされ自分も優しくしようとする心、安心感、憧れ、興味・関心、挑戦してみようとする心、相手に寄り添う気持ち

- 『異年齢交流』
- ・遊び…自由遊び、伝承遊び、未就園児との交流、ペア活動など
 - ・食育…クッキング・そらまめパーティー、仲良し給食・縦割り給食
 - ・行事…芋ほり遠足、ペアダンス、作品展で共同制作、お別れ会、運動会、発表会
 - ・その他…お手伝い、アスレチック、園外散歩

育つ力 → 憧れ、責任感、役立ち感、寄り添う気持ち、遊びの盛り上がり、人とのつながり

【5歳児グループ】

- 『地域交流』
- ・高齢者交流…老健施設訪問、絵本の読みきかせ、伝承遊び
 - ・小・中・高校生との交流…職場体験、高校生との避難訓練、地域参観連絡会など
 - ・地域の方との交流…園外散歩、ポニー交流、未就園児来園、田植え・稲刈りなど

育つ力 → 普段関わりのない方と、関わってみようとする気持ち、寄り添う気持ち、興味・関心

- 『異年齢交流』
- ・新入園児…新入園児のクラス案内や荷物の片づけやシール貼りなどのお手伝い
 - ・未就園児交流…絵本の読み聞かせ、手遊び、子育て支援活動に参加など
 - ・行事や園の取り組み…わくわくデー園外散歩、園外保育、遠足、泥んこ遊びなど
 - ・遊び…自由遊び、ごっこ遊び、コーナー遊び、伝承遊び、ペア活動など

育つ力 → 相手の喜ぶ姿を見て自分も嬉しい感情、役立ち感、寄り添う気持ち、主体的な気持ち

3. 指導助言

鳥取第三幼稚園の取り組みと、今回の幼稚園教育要領の改訂がどう繋がっているかについて
幼稚園教育要領の改訂について ー主な改訂内容ー

○学習指導要領等改訂の概要

- ・子ども達が未来社会を切り拓くための資質・能力の一層確実な育成と、子ども達に求められる資質・能力とは何かを社会と共有し、連携する「社会に開かれた教育課程」の実現
- ・育成を目指す資質・能力の明確化
- ・各学校におけるカリキュラム・マネジメントの推進

また、学習指導要領の方向性として、資質・能力の育成という部分で

- ・学びを人生や社会に生かそうとする学びに学びに向かう力・人間性等
- ・生きて働く知識・技能の習得
- ・未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力の育成 という3つの柱が一貫性をもって貫かれている。幼稚園は学校教育の始まりであり、こうした改訂の方向性を踏まえて幼稚園教育要領において必要な改訂が実施されている。

○幼稚園教育において育みたい資質・能力及び幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の明確化として

- ・豊かな体験を通じて、感じたり、気づいたり、分かたり、できるようになったりする「知識及び技能の基礎」
- ・気付いたことや、できるようになったことなどを使い、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりする「思考力、判断力、表現力等の基礎」
- ・心情、意欲、態度が育つ中で、よりよい生活を営もうとする「学びに向かう力、人間性等」
これらの3つの柱が関連し合いながら子ども達は育っていくため、これらを幼稚園の教育課

程に位置付けていく。

○幼児期の終わりまでに育ってほしい姿として以下の10の観点があげられている

健康な心と身体 自立心 共同性 道徳性・規範意識の芽生え 社会性の関わり 思考力の芽生え 自然との関わり 数量・図形、文字等への関心・感覚 言葉による伝え合い 豊かな感性と表現
--

これらは到達目標ではなく、5領域を中心に保育を進めていく中で自ずと子ども達の姿が変わってくる。また、一人一人の発達の特性に応じて育っていくものであり、すべての幼児に同じように見られるものではない。幼児が発達していく方向を意識して、それぞれの時期に相応しい指導を積み重ねていくことが大切である。

10の観点のうち、鳥取第三幼稚園の研究では「社会生活との関わり」「豊かな感性と表現」という2つの項目が特に重点化されている。

「社会生活との関わり」「豊かな感性と表現」の内容をそれぞれを三つの文節に分けると、知識及び技能の基礎、思考力・判断力・表現力等の基礎、学びに向かう力、人間性等の3つの柱に当てはめて考えることができ、鳥取第三幼稚園の実践でもそれらにつながっている。

このように、それぞれの10の観点を、3つの柱に当てはめながら考えていくと、より子ども達の今大切にしたい姿が見えてくるのではないかな。

○鳥取第三幼稚園の取り組みに学ぶ

・全職員の共通理解に基づく実践 (P→D→C→A)

一貫性のある研究をしている。また研究の自由度として、実践記録の方法を、まずそれぞれの教師がやりやすい方法で行い、その後共通の記録の取り方を話し合っ進めてきた。それぞれの教師の主体性を大切にして園経営がなされている。子どもの興味・関心に沿った保育計画や遊びの発展が常になされている。

・子どもの成長・変容をみとる力

10のキーワードに沿って研究を進めていたが、今の子ども姿はそこに当てはまるのかを常に考えながら保育を進めていた。

・工夫・改善に向けた柔軟な姿勢・チャレンジ精神・チーム力

異年齢交流でペアを決めない、主体的な関わりを大切にしたい教師のねらい。

育児サークルでの年少児の交流、小さい子どもでもやりたいという気持ちが沸いて、外部に向かって活動を展開していた。それが鳥取第三幼稚園の強みなのではないかな。

○実践記録・評価・考察

・実践記録に載っている写真にねらいが貫かれている

・共通理解をしながら、感性の育ちのキーワードをあげている

・それぞれの実践事例からでている、感性の育ちのキーワードを各年齢ごとにあげて年齢ごとの育ちの違いについても研究をしていた。

・実践記録をしていく中で、学級集団での育ちをもとに次の保育を組み立てていくが、個の育ちの視点についても大切にしてほしい。すべての子どもに育ちが当てはまるわけではなく、一人一人の子どもの育ちをみとるということも大切にしてほしい。

・指導計画の見直し

週日案について常に目の前の子ども姿に合わせて活動を見直ししている

これが、改訂された幼稚園教育要領にも書かれているカリキュラム・マネジメントの一步なのでは

ないか。これを園全体の教育課程にも繋げていく。

- 今後の取り組みに向けて、大人になる姿を見据えた教育を展開して欲しい。